

平成 31 年 3 月 29 日

大会史上最多 全国から 140 艇・164 人のジュニア／ユース選手が参加 「第 27 回 YMFS セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」を開催

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団(YMFS)では、3 月 21 日(木)から 23 日(土)の 3 日間にわたり、静岡県立三ヶ日青年の家(浜松市)において「第 27 回 YMFS セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」を開催しました。今大会は、全国 44 クラブから集まった 140 艇・164 人のジュニア／ユース選手が出場しました。



「第 27 回 YMFS セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」は、スポーツ振興くじ助成金を受けて実施しました。

「YMFS セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」は小学生から高校生までのジュニア／ユース世代を対象にしたセーリング大会で、毎年、春休みが始まる 3 月下旬に浜名湖を舞台に開催されています。本大会の特徴は、単に順位を競うチャンピオンシップとしてのレガッタとしてだけではなく、国内トップレベルの実績を持つコーチ陣を招聘し、選手に直接指導を行う「学びつつ、成長できるレガッタ」であること。今回も元オリンピック選手 2 人を含む、4 人のコーチがハーバーで、海上で、さらにレース後の勉強会で熱のこもった指導を行いました。



期間●2019 年 3 月 21～23 日 会場●静岡県立三ヶ日青年の家(静岡県浜松市) 共同主催●公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団、NPO 法人静岡県セーリング連盟 参加艇●OP 級・初級 9 艇／上級 32 艇、ミニホッパー級:11 艇、レーザー4.7 級:22 艇、レーザーラジアル級:44 艇、420 級:22 艇

※この件に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。(担当:箱守・濱北)

www.ymfs.jp

公益財団法人 ヤマハ発動機スポーツ振興財団 (YMFS)

〒438-8501 静岡県磐田市新員 2500
TEL : 0538-32-9827 FAX : 0538-32-1112

Yamaha Motor Foundation for Sports (YMFS)

2500 Shingai, Iwata, Shizuoka, 438-8501 Japan
Tel: +81 538 32 9827 Fax: +81 538 32 1112

〈大会レポート〉

世界大会への選考対象レースとして、ハイレベルな選手の参加増加

昨年の全国高等学校ヨット選手権大会（インターハイ）で、新種目としてレーザーラジアル級が採用されました。これは、59年の歴史を誇る高校ヨット選手権で初めての一人乗り種目の採用という画期的なできごとでした。これにより、高校生セーラーの競技種目は二人乗りの420級と、一人乗りのレーザーラジアル級の二種目となり、世界的に普及しているユース種目と同じ枠組みとなりました。

このことが影響したのか、今年はレーザーラジアル級が44艇（前回大会は29艇）、420級が22艇（前回大会は15艇）と、高校生種目が大きくエントリー数を増やし、本大会は3大会連続で最多参加艇数の記録を上回る結果となりました。またレーザーラジアル級、レーザー4.7級ともに、本大会が世界選手権出場選手の選考対象レースに指定されていることで、競技レベルの高い選手が集まる傾向が強まっているようです。



大会会場となった静岡県立三ヶ日青年の家

本大会の最大の特徴である「学べるレース」を実現させるコーチ陣は、中村健次さん（470級でソウル五輪、アトランタ五輪、49er級でシドニー五輪、アテネ五輪と4大会のオリンピックに出場。現在は日本セーリング連盟オリンピック強化委員会統括コーチ）、佐々木共之さん（レーザー級でアトランタ五輪、49er級でシドニー五輪に出場。現在は日本レーザークラス協会強化委員長）という2人のオリンピックを始め、永井久規さん（本大会の前身ジュニアチャンピオンレガッタでシーホッパー級2連覇（97・98年）。2010年アジア大会レーザー級銀メダリスト。現在は日本レーザー協会強化委員会スタッフ）、高橋昌威さん（各水域におけるレーザークリニックなどで指導を実施。現在は日本レーザー協会強化副委員長）と国内トップレベルのコーチ陣が、それぞれのクラスを担当し、毎日のレースを見ながら海上で直接指導を行ったり、夕食後に行われる勉強会で講義を行いました。

また、初日のみとなりましたがノースセイルジャパンの白石潤一郎さんが、全てのクラスに共通するセイルトリムの考え方についての講義を行い、各選手ともメモを取りながら真剣な表情で聞き入っていました。



真剣な眼差しで講義を受ける選手のみなさん

昨年からGPSのトラッキング機能を使い、各レース艇のリアルタイムの位置表示を行う「スマホでヨット」というシステムが参加全艇に導入されましたが、今大会からは昨年の世界セーリング選手権（デンマーク）で採用された「Trac Trac」という、さらに解析精度の高いシステムが導入され、より高度なレース解析が可能となりました。

昨年は3日間とも晴天に恵まれた本大会でしたが、今年は初日があいにくの雨天となり、開会式は三ヶ日青年の家の体育館で行われました。しかし、その初日も午後からは雨も上がり、2日目からは晴天となり、春の浜名湖らしい北西からの強風が吹いたことで、各クラスとも十分なレース数が消化されました。



大会2日目は10m/sを超える強風が吹いた

【OP 級】 小中学生が取り組む OP 級は選手間の技術レベルの差が大きいため、セーリングを始めたばかりの選手を初級とし、それ以外の選手を上級とする 2 クラスに分けてレースが実施されました。初級クラスで優勝したのは地元の浜名湖ジュニアクラブに所属し、レース海面に近いビーチスマリーナで活動している縣潤乃介選手(小 4)。ヨットを始めたのは小学校 3 年の 7 月で、この大会に出るのは 2 回目。今回の優勝は「去年よりタッキングで失敗することが減ったこと」が勝因だと冷静に分析。上級クラスで手堅い走りを見せて優勝したのは江の島ヨットクラブジュニア所属のポール・マテウ選手。フランス生まれでスペイン国籍のマテウ選手は、去年の夏に両親とともに来日し、横浜のインターナショナルスクールに通う 13 歳。11 歳のときにバルセロナのヨットクラブでヨットを始めたという彼は「浜名湖は初めてですが、波がなくて風がシフティなところがバルセロナの海と似ていたので、うまく走らせることができました」と謙虚に勝因を分析。女子優勝は四国の高松から来た旭夏希選手(中 1)。お父さんの勧めで小 3 の 5 月からヨットに乗り始めました。「スタートは得意な方だと思います。エンドは狙わず真ん中から出遅れないようにスタートして、その後に風のシフトに合わせていくのが私のスタイル。今回はそれがうまく行きました」と中 1 らしからぬクレバーな考えを語ってくれました。



強風でもレースが行われた OP 級上級

【ミニホッパー級】 1993 年の第 1 回大会から種目として採用され続けているのがミニホッパー級。このクラスでは例年、山中湖中学校ヨット部のエントリーが多く、今年も 11 艇中 8 艇が同中学の選手で、上位も山中湖中学の 3 艇が独占。中でも 6 レース中 5 回トップフィニッシュを果たした長田貴哉選手(中 3)が優勝。山中湖中学校ヨット部は、第 1 回の高村幹治選手の優勝以来、実に 9 回目の優勝となりました。去年は 2 位だったという長田選手は「去年まで苦手だったランニングの走りが少しよくなったことと、メインセールのコントロールがなんとなくわかってきた」ことが今回の勝因だと語ってくれました。4 月からは富士北稜高校に進学し、ヨット部に入部して同じ山中湖で活動していくようです。



第 1 回大会から種目になっているミニホッパー級

【レーザー4.7 級】 レーザーシリーズ最小のリグを持つレーザー4.7 級には、OP 級では体格が大き過ぎる中学生を中心に 22 艇がエントリー。世界選手権の代表選考ランキングがかかるシビアな戦いのなか、7 レース中 5 レースでトップフィニッシュ、失点 7 の見事なスコアで優勝したのは、ディフェンディングチャンピオンの元尾帆斗選手(中 3)。昨年同様、長崎からセールだけを持って新幹線を使い、浜名湖まで遙々やってきた元尾選手。今年の世界選手権に出場することができれば、なんと 3 回目のチャレンジとなります。「ちょっと高い目標ですけど、世界選手権では 20 位以内を目指します」と抱負を語ってくれました。女子優勝は第 3 レースでのリコールが最終日にカットレースとなって順位をジャンプアップさせた抜井理紗選手(高 2)。小学校 2 年の時からヨットを始め、レーザー4.7 級以外にも、レーザーラジアル級、二人乗りの 29er 級などさまざまな艇種で活動しています。



年々レベルが上がってきたレーザー4.7 級

【レーザーラジアル級】 昨年からインターハイの種目となったレーザーラジアル級には、今大会最多となる44艇がエントリー。レーザー4.7級同様、世界選手権の代表選考ランキング対象レガッタとなっているため、レベルの高い選手が集まりました。ドラマは3レースが一气に行われた最終日におこりました。首位の服部陸太選手を5点差で追う黒田浩渡選手、最終日はこの2人の一騎打ちかと思われたのが、前日までは首位から14点差をつけられての4位に甘んじていた白石誉輝選手が最終日の3レースを全て2位フィニッシュの快走。なんと全7レースを終えて三者の失点は15点の同ポイント！ 規定により1位を4回取っている黒田選手が優勝、2位は1位が3回の服部選手、3位は安定して走ったものの1位を取っていない白石選手という結果になりましたが、この3人の実力は完全に互角。父親の勧めで小3からOP級に乗り始めたという黒田選手。「これまで2回レーザー4.7級で出場したんですが優勝できなかった(昨年2位)ので、今年は優勝したかった」。4月からはヨット部のある三重県立津工業高校に進学予定で、大阪の実家を離れて一人暮らしを始めることとなります。女子優勝は、最終日まで男女総合でも3位に食い込む活躍を見せていた三浦帆香選手が昨年に引き続きの2連覇を果たしました。「この1年心掛けたのはフィットネスを高めること。トレーニングメニューに基づきフィジカルトレーニングに励みました。おかげで強風のハイクアウトも去年以上にラクになりました」。



上位3艇が同ポイントで並んだ激戦のレーザーラジアル級

【420級】 昨年のインターハイ種目からFJ級が外れたことで、本大会も二人乗り種目は420級の1クラスとなりました。その影響かエントリー数は昨年(15艇)を上回る22艇がエントリーしました。優勝は6艇がエントリーした慶應義塾高校ヨット部の伊藤賢／海老澤快(ともに高2)チーム。ジュニア経験者もいる同クラブですが、伊藤選手は中学では山岳部、海老澤選手は中学でテニス部でした。「年明けからの乗り込みで全般的なスキルが上がったような気がします」(伊藤選手)と伸び盛りのコンビです。また前回大会では出艇申告ミスの特典で優勝を逃した岩月愛望選手が、新しいクルーの成田絵真選手とのコンビで雪辱を期しますが、最終日に逆転されて今年も3点の僅差で準優勝(女子ではトップ)。「まだ新しいコンビなので、クルーとのコンビネーションを高めている途中でした」と悔しさを滲ませました。2人が所属する碧南セーリングクラブの山田コーチは「岩月選手のお兄さんが2014年大会で優勝(FJ級)していたので、どうしても同じ1位の表彰台に立ちたかったみたいです。その悔しさはインターハイでのバネにすればいいと思いますよ」と夏の雪辱に期待をかけていました。



420級には慶應義塾高校ヨット部が6艇エントリーした

〈大会の様子〉



初日はあいにくの雨天で、開会式は体育館で行われた



開会宣言をする大会会長の木村隆昭理事長



選手宣誓は地元浜名湖ジュニアクラブの山崎彩加選手



レーザー級のラダー計測の様子



佐々木コーチ自らセールの計測を行う



Trac Trac の端末を受け取る選手たち



セールトリムの考え方を講義するノースセールジャパンの白石潤一郎コーチ



5 その日撮影した動画をもとにレクチャーする佐々木共之コーチ



中村健次コーチが 420 級のスピンホイストの方法をレクチャー



海上で直接指導する永井久規コーチ



出艇前のミーティングを行う YMFS 葉山の選手たち



昨年は出艇申告ミスで優勝を逃した選手もいる。重要な出艇申告



大会 2 日目の午後は強風のためミニホッパー級と OP 級初級のレースはキャンセルとなった



レーザー4.7 級で 2 連覇した元尾帆斗選手

〈上位成績〉

OP 級 初級(参加 9 艇)

総合 1 位 縣 潤乃介(静岡県セーリング連盟浜名湖ジュニアクラブ)
総合 2 位 川北 創一(B&G 高松海洋クラブ)
総合 3 位 濱川航英(海陽海洋クラブ)



OP 級 上級(参加 32 艇)

総合 1 位 ボル・マテウ(江の島ヨットクラブジュニア)
総合 2 位 芝田豊栄(江の島ヨットクラブジュニア)
総合 3 位 太田 薫(清水ヨットスポーツ少年団)

女子 1 位 旭 夏希(B&G 高松海洋クラブ)
女子 2 位 岩波萌夏(江の島ヨットクラブジュニア)
女子 3 位 鷺尾 空(江の島ヨットクラブジュニア)



ミニホッパー級(参加 11 艇)

総合 1 位 長田貴哉(山中湖中学校ヨット部)



レーザー4.7 級(参加 22 艇)

総合 1 位 元尾帆斗(B&G 時津海洋クラブ)
総合 2 位 坂井理紗(B&G 兵庫ジュニア海洋クラブ)
総合 3 位 豊島有壮(広島ベイディンギークラブ)

女子 1 位 坂井理紗(B&G 兵庫ジュニア海洋クラブ)



420 級(参加 22 艇)

総合 1 位 伊藤 賢／海老澤 快(慶應義塾高等学校ヨット部)
総合 2 位 岩月愛望／成田絵真(碧南セーリングクラブ)
総合 3 位 田畑詠一郎／若林柊吾(熱海高等学校)



レーザーラジアル級(参加 44 艇)

総合 1 位 黒田浩渡(レーザー津フリート)
総合 2 位 服部陸太(江の島ヨットクラブジュニア)
総合 3 位 白石誉輝(神奈川ユースヨットクラブ)

女子 1 位 三浦帆香(千葉ヨットビルダーズクラブジュニア)
女子 2 位 須田英実子(滋賀県セーリング連盟)
女子 3 位 須永笑顔(YMFS 葉山)

